

資料室 ニュース Vol. 2

2002年10月27日発行

震災直後の新聞が
閲覧できます！！

神戸新聞
の記事が検索
できます！！

新刊図書

| 題名 | 著者 | 出版社 |
|--------------------------------------|---------------------|-------------|
| 防災事典 | 日本自然災害学会監修 | 築地書館 |
| 20世紀の災害と建築防災の技術 | 日本建築防災協会編 | 技報堂出版 |
| まちづくりキーワード事典(第2版) | 三船康道他 | 学芸出版社 |
| 道路震災対策便覧(震災復旧編) | 日本道路協会編 | 日本道路協会 |
| (地球科学の新展開1)地球ダイナミクスとトモグラフィ | 川勝均編 | 朝倉書店 |
| 気象災害の予測と対策 | 鏡村曜 | オーム社 |
| (土木系大学講義シリーズ4)地盤地質学 | 今井五郎、福江正治、足立勝治共著 | コロナ社 |
| 火山のはなし | 下鶴大輔 | 朝倉書店 |
| 神戸のまちづくりと明治の区画整理 | 小原啓司 | 丸善株式会社 |
| 地震のはなし | 茂木清夫 | 朝倉書店 |
| 地震一図解雑学—絵と文章でわかりやすい！— | 尾池和夫 | ナツメ社 |
| 災害は忘れた所にやってくる | 長谷見雄二 | 工学図書 |
| 自然災害と防災の科学 | 水谷武司 | 東京大学出版会 |
| 第四紀逆断層アトラス | 池田安隆編 | 東京大学出版会 |
| お天気50年 気象と災害の記録 | 清水昭邦 | 山海堂 |
| 清陰星雨 | 中井久夫 | みすず書房 |
| 防災への道しるべ揺れる大地 地震・津波・火山噴火のしくみとその監視・予測 | 清野政明 | クライム気象図書出版部 |
| まちづくり組織社会学 | 田中豊治 | 良書普及会 |
| 災害情報論 | 廣井篤 | 恒星社厚生閣 |
| (東北大学出版会叢書8)君子未然に防ぐ | 山下文男 | 東北大学出版会 |
| 天然ゴムと災害 | 田畑茂清、水山高久 | 古今書院 |
| 地すべりと地質学 | 藤田崇編著 | 古今書院 |
| 東海地震に備える 企業の地震防災対策 | (財)静岡総合研究機構 防災情報研究所 | 近代消防社 |
| 災害救助 | 竹内吉平 | 近代消防社 |
| 災害過程と再生過程 | 辻勝次 | 晃洋書房 |
| 地震と噴火の日本史 | 伊藤和明 | 岩波書店 |
| これで安心！危機・災害マニュアル | 白鳥敬 | 誠文堂新光社 |
| NHK20世紀日本大災害の記録 | 藤吉洋一郎監修 | 日本放送出版協会 |
| ケースブック 情報公開法 | 宇賀克也 | 有斐閣 |
| 鉄道を巨大地震から守る 兵庫県南部地震をふりかえって | 仁杉巖監修 久保村圭助編著 菅原操編著 | 山海堂 |
| 消防白書 平成13年度版 CD-ROM付 | 消防庁編 | ぎょうせい |
| 人を助ける犬たち 犬とともに歩む人たち | 江澤恭子 | ミネルヴァ書房 |
| 日経サイエンス 2002年10月号「どうなる東海大地震」 | | 日経サイエンス社 |
| Newton 2002年6月号「東海・南海地震」 | | ニュートンプレス |
| 災害手帳(平成14年版) | 全日本建設技術協会 | 全日本建設技術協会 |
| 戸建住宅の耐震改修工法・事例 | | (財)日本建築防災協会 |
| 地学雑誌 Vol.111 No.2 | | 東京地学協会 |

日本版

～地震にまつわる言い伝え～

日本ではよく、「なまずが暴れると地震が起こる」といいますね。なぜ、そういうことが言われ始めたのでしょうか？

地震の起きる前の、なまずの不思議な行動について、安政見聞誌にこんな記述があります。

「本所永倉町に篠崎某という人がいました。-中略- 二日（地震当日）の夜も数珠子という仕掛けでウナギを取ろうとしたが、鯰がひどく騒いでいるためにウナギは逃げてしまって一つも取れません。しばらくして鯰を三匹釣り上げました。さて、今夜はなぜこんなに鯰があばれるかしら、鯰の騒ぐ時は地震があると聞いている。万一大地震があったら大変だと、急いで帰宅して家財を庭に持ち出したので、これを見た妻は変な事をなさると言って笑ったが、果たして大地震があって、家は損じたが家財は無事だった。隣家の人も漁が好きで、その晩も川に出掛けて鯰のあばれるのを見たが、気にもとめず釣りを続けている間に大地震が起こり、驚いて家に帰って見ると、家も土蔵もつぶれ、家財も全部砕けていたという。」

出典 http://yochi.iord.u-tokai.ac.jp/namazu/hajimete/hajimete_2.htm

江戸時代初期に、地震が多発し、江戸で大きな被害が出ました。それをきっかけに、なまずの不思議な行動と地震に関する言い伝えが生まれた、とされています。

昔から、地震前後のなまずの不思議な行動は観察されていたようです。現在でもなまずは、地震予知の動物としても研究対象となっています。なまずには皮膚の表面付近にロレンチニのびんと言う、電気にもものすごく敏感な感覚器官が発達しているため、地震の前に見せる微妙な地電流を察知するそうです。

参考文献：「鯰絵」震災と日本文化 監修 宮田登・高田衛 里文出版 1995

世界にもそんな言い伝えがあるのかな？

世界版



西アフリカでは・・・地球はある巨人の頭の上ののって、地上に生えているあらゆる植物は彼の髪の毛である。人々や動物はその髪の毛の中を這う昆虫である。巨人はふつう東を向いて座っているが、たまに西を向いてから東を向くことがある。それが、地震として感じられる振動なのだそうだ。

インドでは・・・地球は亀の背の上立つ4匹の象によって持ち上げられている一方、亀はコブラの頭の上でバランスをとっています。これらの動物のいずれかが動くと、地球は揺れて振動するといわれている。

ニュージーランドでは・・・母なる地球の子宮の中に、「ルー」という若い神である子どもが入っていて、その子どもがまるで赤ん坊がするように伸びやキックをするから、地震が起こるといわれる。

出典：<http://www.fema.gov/kids/eqlegnd.htm>【訳】山村由華（資料室）



読書の秋

資料室で本を読んでみませんか？

『兵庫県地震災害史—古地震から阪神・淡路大震災まで—』

寺脇弘光著 1999年 神戸新聞総合出版センター 1,800円

(資料室 図書番号 4-C 8663)

暑い夏が過ぎ、読書の秋が到来した。そんなとき、兵庫県で起こった地震の歴史に思いをはせてみるのはどうだろう？

まず、この本は地震及び地震に関する史料に関する知識がなくても簡単に古地震の基礎知識を得ることができる。次に、現在の兵庫県地域で発生した古地震や他の地域で起こった地震によって兵庫県が被害を受けた古地震に関する詳細が分かる。特に、山崎断層上で発生した貞観10年(868年)に発生した播磨国大地震は、須磨寺の古文書「当山歴代」に記録があり、姫路市内の遺跡に噴砂の痕跡が残っていることで興味深い。日頃、災害への備えをすると同時に、郷土史を通じて自分の住む地域の古地震を知ることによって、地震をより身近に感じることができるだろう。

書評 水本有香(資料室)



答え Q1: 1 (津波の速さは時速500kmくらい。) Q2: 2

地震クイズ!

Q1 津波の速さは次のうちどれくらいでしょうか？

1. ジェット機くらい
2. 新幹線くらい
3. 自動車くらい



Q2 ビルの窓ガラスが割れて飛び散りました。どのくらいの距離を飛び散りますか？

1. ビルの高さと同じくらい。
2. ビルの高さの半分くらい。
3. ビルの高さの3分の1くらい。



(すぐに役立つ学校防災-大震災が学校をおそったら②③: 学習研究社より)